国立成育医療研究センター整形外科

高　木　岳　彦

当センターは胎児期から思春期を経て成人期へと至るライフサイクルに生じる疾患（成育疾患）に関する医療（成育医療）と研究を推進しているナショナルセンターです。「良質な医療の提供」「成育医療に関する情報の発信」「志高く向上心を持った人材の育成」「質の高い臨床研究の推進」の4つを基本方針に掲げていますが、稀少疾患の小児患者にとっては最後の砦となり、こうしたお子さんやご家庭に適切な医療が提供できるよう日々技術の研鑽に勤しみながらその診療に尽力しています。

特に、小児手外科で取り扱う疾患は、子どもの成長に伴い自然に矯正される場合がある一方、成長とともに変形や機能障害が徐々に悪化することもあり、成長という要素を常に考慮して診療を行っています。

▶診療体制（外来）

初診外来は火・水曜日に交替で行っています。他の専門医の初・再診外来は他の曜日に行っていますが、病状によって専門性が高い場合、緊急性を要する場合は、医療連携室を経由して、紹介医から情報を得て専門医が個別に受け入れるようにしています。

▶診療体制（手術）

多くの四肢先天異常の手術に携わっており、その数だけでも年間250例以上と世界有数の手術数を誇っています。その種類は極めて多彩であり、多くの経験があるのが当科の特徴です。そのほか、救急診療科と協力して四肢の骨折などの外傷治療も行っていますが、上腕骨顆上骨折や外側顆骨折を始めとした肘周辺骨折を中心に上肢の外傷と内反肘変形などの後遺障害を扱っています。

▶カンファレンス

毎週、整形外科医師間で綿密なカンファレンスを行い、子どもの成長を念頭に置きながら、細かい手術方法のみならず適切な保存療法やリハビリテーションなども含めて、最善の治療戦略を計画しています。

▶海外留学医師の受け入れ

またもう一つの当科の特徴として海外留学医師を積極的に受け入れている点が挙げられます。グローバルな視点より、多様な価値観を認め合い、新たな風を取り入れるべく、海外臨床留学を積極的に受け入れる体制を整えてきました。まとまって小児の手外科を学びたい海外の医師は少なくなく、2019年頃より募集を開始したところ、コロナ禍による中断を経て、2023年1月の時点で2025年度まで研修が埋まってきている状況で20名程度待機してもらっている状況です。出身国も

台湾、マレーシア、ブラジル、スロバキア、インド、フィリピンと既に受け入れ、今後サウジアラビア、グアテマラ、香港、イタリア、エジプト、、、と続きます。海外留学医師には外来や手術、カンファレンスに参加し、学術論文や国際学会へも積極的に発表してもらっていますが、このような交流を通じて、当センターに勤務している医師にとっても学ぶことが非常に多いです。また同時に日本に学びに来てもらっている以上、彼らには有意義に過ごして欲しいため、日々研修システムの改良に努めています。

随時見学などは可能です。ご気軽に問い合わせ頂ければ嬉しいです。

国立成育医療研究センター 整形外科 診療部長
高　木　岳　彦
takagi-t@ncchd.go.jp

海外留学医師
（左よりBoris Dzula先生【スロバキア】、Mariana Almeida先生【ブラジル】、Sayantani Misra先生【インド】、高木）
（2022年9月21日、国立成育医療研究センター前にて）